

学校経営のポイント

学校経営の“中間点検・評価”を

若井 彌一

いわゆる「みずほフィナンシャル」グループを構成している第一勧業銀行・富士銀行等の中間決算の見通しが、「不良債権」処理額の大幅増により、巨額のマイナスになることが明らかになった（11月24日報道）。

「不良債権」とは、経営が破綻した企業や経営不振に陥っている企業に対する貸付金・売掛金などを回収することが不可能または著しく困難と判断される債権、というほどの意味である。

厳しい“企業の「中間」点検結果”

具体的には、貸付先の倒産などにより回収不能となった債権（経営破綻先債権）、担保（保証）など債権を確保する条件はあるものの、将来的に回収不能となる可能性（危険性）が高く、現に利子の返済が6ヵ月以上滞っている債権（延滞債権）、前記の以外の延滞債権に加え、金融機関が支援のための経営再建計画を策定するなど、金利を減免したり、棚上げしている債権などが「不良債権」の内容である（『現代用語の基礎知識』自由国民社による）。

「不良債権」の処理額が大幅増になったということは、年度の当初予想が甘かったということになるのだが、甘かったのは「みずほフィナンシャル」グループだけではないところに現在の日本経済の深刻さがある。

わが国の教育界では、昨今「不良債権」処理ならぬ「学力低下」問題が多くの人々の関心事になっており、教育関係雑誌だけでなく一般雑誌までもが児童・生徒・学生の「学力」問題を取り上げているほどである。

“わが校”の実態はどうであろうか。4月に新学年度がスタートしてから、すでにほぼ8ヵ月が経過

しようとしている。

学校経営を“中間点検・評価”してみる

新学習指導要領の全面実施が目前に迫っており、その趣旨の中核をなしている「学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、児童（生徒）に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かし特色ある教育活動を展開する中で、自ら学び、自ら考える力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実に努めなければならない」という課題については、どの学校でも真剣に取り組んでいることと思われる。

「努めなければならない」とあるように、これは努力目標であるが、単に漠然と努力しているだけでは不十分である。努力目標のうち、何が、どこまで達成されているのか、各学校で点検・評価する作業に取り組んでいただきたい。「学力」問題を、単純化して「上がったのか、下がったのか」と興味本位に論ずることには、それほど生産的意味はない。

学年度の残り3分の1にさしかかろうとする時点での各学校の“中間点検・評価”にこそ期待したい。個々の学校の地道な取組みが、曖昧な「学力」問題の輪郭をより明確にすることになる。

（わかい・やいち＝上越教育大学教授）

キーワードは“教師”と“子ども”！
“読本シリーズ”最新刊 好評発売中

- 『発展的学習の指導の手引き』高階玲治編・2100円
- 『子どもの学力読本』新井郁男編・2100円
- 『指導力不足教員』読本』八尾坂修編・2100円

本紙はホームページでも閲覧できます
<http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>

11月の研修図書 11月17日発売！ 新指導要領と新指導要録下の月別指導実務解説 教育開発研究所刊

学校経営相談 12ヵ月[全6巻] No. 4『教育指導・教育評価』B5判230頁・定価2,310円

【好評発売中】No.1「学校の組織・運営」/No.2「生徒指導・進路指導」/No.3「教育課程経営」